

## 【(4) 授業の展開】

### ②-3 「ペア学習や班活動等を取り入れて学習を円滑に行えるように配慮している」

#### 《つまずきの背景》

- B 言語理解の困難さ、C 記憶力の弱さ、M 自己コントロールの困難さ、N 注意の持続の困難さ、  
Q 状況理解の困難さ、R 会話のスキルの獲得の困難さ

#### 《解説》

ペア学習やグループ学習をうまく活用することで、子ども同士が互いに教え合うことができるようになります。学習内容の理解を図る際にも、ペアやグループでお互いが確認できるようにしておく効果的です。また、グループでまとめたものを発表するときには、発表する子どもを事前に知らせておくことで心構えができ、落ち着いて発表することにつながります。話し合いの際には、進め方のプリントを事前に配付しておくスムーズな話し合いにつながります。

学級の中には、言語理解や会話のスキルの獲得が困難なためにうまく発表できない子どもがいる場合があります。その際、普段からペア活動やグループ活動が円滑に行えるように配慮し、グループの他のメンバーが発言の仕方を教えるなどのフォローが自然に行えるようにしておくことが大切です。また、注意の持続が困難な子どもや状況をうまく理解できない子どもがいる場合にも、自然に周りの子どもが言葉掛けなどを行い、注意を喚起したり状況を説明したりすることも必要です。

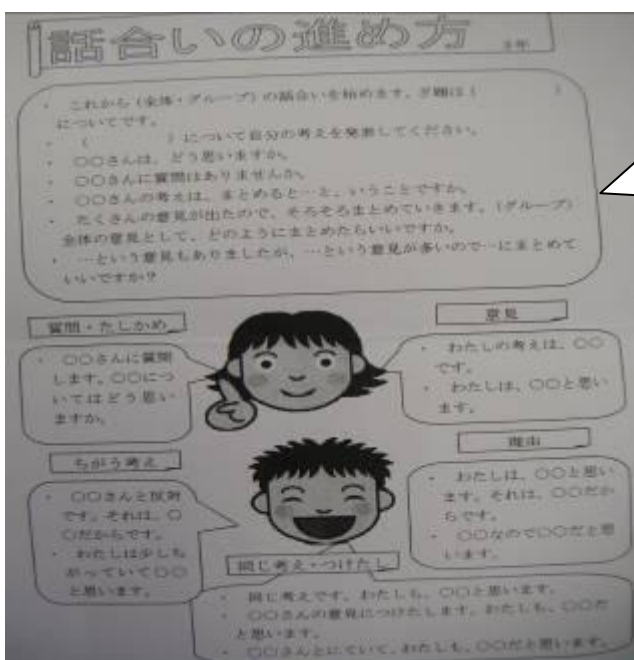
ペア学習やグループ活動の際には、座席の配置を考える必要があります。モデルとなる子どもが各グループに入るようにグループ活動の編成を考えたり、ペア学習の際にも、隣に座る子どもに配慮したりすることが大切です。



#### 【工夫点】

- ・ペア学習やグループ活動では、司会者を決め、話す順番を決める。(小中高)
- ・グループの席に番号を決め、グループでまとめたものを発表するときは、発表する番号を事前に知らせる。(小中高)
- ・モデルとなる児童が各グループに入るようグループ編成を考える。(小中高)
- ・全員に確実に理解させたいときには、グループや隣同士で確認できてから着席するようにする。(小中高)
- ・話し合いの仕方を書いたカードを持たせ、それを手掛かりに話し合いを進める。(小中 工夫例32)

### ◆工夫例 32 「話し合いの仕方を書いたカードを持たせ、それを手掛かりに話し合いを進める」



#### 《小学校3年生》

事前に「話し合いの進め方」のプリントを配付しておいて、グループ活動等における話し合い活動の際には、いつ見てもよいことを伝えておきます。そのことが子どもにとって安心感につながり、話し合いの進め方がうまくなるとともに、活発な話し合い活動が期待できます。

